



トビアス・ストーリー (2) 父の諭し

絶望的な祈りをしてしまったトビトでしたが、それでも、最後には「主よ、あなたのみ顔をわたしから背けないでください」と神にすがるのであります。そして、祈ったあとは、理性的に行動する人に戻ります。夫婦喧嘩をしたとはいえ、一家の長です。突然彼はメディア地方に住む従兄弟のガバエルに預けておいたお金のことを思い出し、息子トビアスの行く末を思い、財産を受け取りにトビアスを旅立たせる決心をします。そして、遺言のように懇々と諭しの言葉を、トビアスに語るのです。

☆まず、手厚く私を葬っておくれ。

☆母を敬い、生きていくかぎりその喜びををし、母の心を悲しませてはいけません。

☆主をいつも覚えておくのだ。

☆正義を行い、財産に応じて施しをせよ。

☆先祖の家系から妻をめとりなさい。

☆働いてくれた人には、すぐにその場で賃金を支払いなさい。

☆思慮深い人からは忠告を求め、何をするにせよ、注意深く行いなさい。Etc.

最後にお金の預け先を教えますが、「わが子よ、わたしたちが貧乏になったことを心配してはならない。もし神を恐れ、あらゆる罪を避け、主なる神の前に喜ばれることをするならば、お前は多くの良きものを得ることになる」と、トビトは神を信頼することが最も大切であることをトビアスに伝えるのです。

息子トビアスは「お父さん、わたしにお命じになった事はすべて行います」と即座に答えました。彼は純情、純真で、父親思いの孝行息子でした。また、注意深い人間にも育っていました。どのように父の意図を果たせるか、方法を教えてもらいました。そしてすぐに父の意に則って、旅に出る決心をします。



母ハンナは反対し「それほどお金が大切なのですか。息子の命に代えられるものではありません。私たちは主によって生かされているのですから、今のままで十分です」と泣き悲しみます。

トビトは妻を慰め、トビアスを旅立たせます。トビアスは一人の若者に出会います。道に詳しいし、同族の人だと分かり、父トビトは彼を案内人として雇いました。二人は出発しました。トビアスの犬も二人について行きました。

- ・ 夫婦喧嘩をした後ですが、妻ハンナを大切に思っていることは間違いなことが彼の諭しの言葉から読み取れて、嬉しく思います。お金の使い方とその人の生き方が分かりますね。
- ・ 息子トビアスには愛犬があったんですね。聖書では犬は嫌われ者の代名詞ですが、犬好きの私としては、トビアス君に親近感を抱かずにいられません。(私の感想)